



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社 **エイチワン**

代表者名 代表取締役社長 金 田 敦
(コード番号 5989)

問合せ先 常務取締役管理本部長
太 田 清 文
(TEL 048-643-0010)

平成 27 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異
及び 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績について、平成 26 年 4 月 25 日に公表いたしました業績予想と差異が生じたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間における連結業績予想値と実績値との差異
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1 株当たり 四半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	94,000	2,500	2,000	1,000	35.22
実績値 (B)	91,454	1,890	1,753	417	14.72
増減額(B-A)	△2,545	△609	△246	△582	
増減率 (%)	△2.7	△24.4	△12.3	△58.2	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	88,167	2,461	2,550	1,540	61.67

2. 差異の理由

当第 2 四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、自動車フレームの生産は拡大基調にありましたが、計画に比べますと、インドを除く生産拠点において、これを下回る水準となり、特に日本においては消費税引き上げが想定以上に需要の鈍化を招き、為替市場の円安に伴う為替換算上の影響があったものの、売上高は計画を下回ることになりました。

このような生産状況のもと、更には、厳しい価格競争も伴う中で、当社グループでは利益の創出を図ってまいりましたが、日本、タイでは計画に比べて生産台数が減少したことが利益の下振れ要因となり、加えて、第 1 四半期連結会計期間から連結の範囲に含めたインドネシア事業において事業開始の初期コストが想定を上回ったことが重なり、営業利益、経常利益がともに計画を下回ることとなりました。また、以上のような理由から、連結子会社別の税引前四半期純損益についても計画比で差異が生じたことから法人税等並びに少数株主利益が変動し、四半期純利益が計画を下回ることになりました。

3. 平成 27 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1 株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	191,000	6,000	5,100	2,700	95.10
今回修正予想 (B)	190,000	3,800	3,000	1,000	35.22
増減額(B-A)	△1,000	△2,200	△2,100	△1,700	
増減率 (%)	△0.5	△36.7	△41.2	△63.0	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	179,944	5,318	5,663	3,496	136.58

4. 修正の理由

今後につきましては、当社グループにおける自動車生産台数は、期末にかけて増加していくものと想定しており、また為替レート的前提を US ドルについては従来の 1 ドル=100 円から新たに 1 ドル=105 円に、また各通貨についても総じて円安方向に見直しておりますが、現在までの状況を踏まえすと、生産量が従来の計画には及ばないため、売上高は、計画に比べて減少する見通しであります。

利益面では、日本や北米での厳しい価格競争やタイの需要が想定より弱まる可能性があり、また、インドネシア事業及びメキシコ事業の安定化にはもうしばらく時間を要す状況であることから営業利益、経常利益、当期純利益が従来の計画に比べて減少する見通しであります。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上